

# 仮面ライダーCHRONICLE

補中益気湯

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

とあるゲームに参加した主人公：秋風桜花。

そこから始まる数奇な運命に翻弄されていく。

出会い・友情・恋愛・そして怒りに憎悪…。

彼女は自分のそして他の大切な人間達の運命を変えることが出来るだろうか……。

目次

Reminiscence (序章)

## Reminiscence（序章）

雨が降っていた。

あの日と同じように。

運命を決めたあの時と同じように…。

目線に戻せば目の前には自分と同じ姿をしたエグゼイドが。

互いにライフゲージは残り僅か。

出来れば戦いたくない。

私にも戦う理由がある。

本気で行かなければ倒されるのは私。

でも…。

そんな葛藤が心を責める。

恐らくというか確信的に感じる。

相手も同じ心持ちなのだ。

それでも互いに1歩も引かずに戦う意志を見せている。

私はこの先にいる1人の人間を救おうとして。

貴方は目の前の1人の人間を救おうとして。

???「もうこれ以上はやめて！貴方がそうまでしてあの人を救う事は

ないの！」

???「あの人には貴方の運命を変えることも貴方に運命を変えてもら

うことも出来ない！」

???「そんな人のために貴方が傷つくことなんてない！」

???「これまでも貴方は充分運命と戦ってきた。そして同じだけ他の

人の運命も変えてきた。」

???「これ以上貴方が他の人の運命を背負うことも貴方自身との運命

と戦うことも無い！」

???「貴方はもう充分やってきたじゃない…。」

泣きそうになりながら訴える目の前のエグゼイド。

それでも引けない理由が私にはある！

???「違う！私はあの人運命を変えるためだけに戦っているんじゃない！」

ない！」

「私自身の運命も変えるために戦っているの！」

「確かに辛いことも沢山あったけど…」

「それでも！だからこそ！私は彼を救いに行きたいの！」

「その決意だけは揺らいではいけない！揺るがすわけにはいかな  
いの！」

「誰になんと言われようと私は行く！そこをどいて！」

諦めたように息を吐く目の前のエグゼイド。

「話しても無駄なのね……。」

「彼が一番大事。それは分からなくはないわ。」

「彼の姿をあなたと同じように見てきたから……」

「だからこそ退くわけにはいかない！あなたを苦しませる人の元  
へなんて行かせる訳にはいかない！」

互いに引くことは出来ない。

ここまで来たら戦うしかない！

西部劇の早打ちを思わせるような息の詰まる心理戦。

少しでもタイミングが狂えば返り討ちにあう。

互いにベルトの横に手を持っていく。

全くの同瞬。

あらゆる時の単位を用いても表すことの出来ない  
まさに同瞬。

その一瞬で全てが決まっていた。

M M  
I I  
G G  
H H  
T T  
Y Y  
D D  
O O  
U U  
B B  
L L  
E E  
C C  
R R  
I I  
T T  
I I  
C C  
A A  
L L  
S S  
T T  
R R  
I I  
K K  
E E  
! !  
× 2 「はあーっ！ てやーっ！」  
助走をつけ互いに空中でキックを放つエグゼイド2人のエグゼイ  
ド。

その決着の行方は誰も分からない……。

この2人はどんな運命に導かれてここまで来たのだろうか……。

運命を掛けたゲームが今始まる！

運命！ゲームスタート！